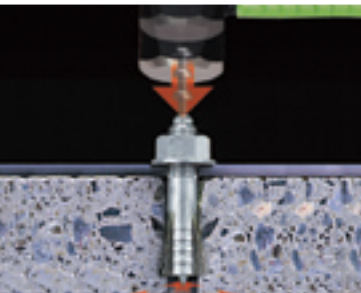
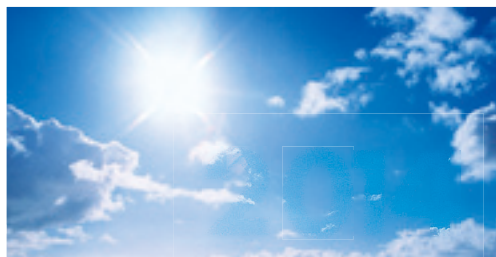




IR NEWS

第46期
中間事業のご報告
平成21年4月1日～平成21年9月30日



C o n t e n t s

トップメッセージ / セグメント別事業概況 / 連結財務諸表 / トピックス / 株主広場



サンコーテクノ株式会社

JASDAQ
証券コード：3435

TOP MESSAGE



お客様の目線に立ったトータルな
「システムづくり」によって、
さらなるマーケット拡大を目指します。

代表取締役社長 洞 下 実

Q1 今上半期の業績ならびに通期の見通しについて、概要をお聞かせください。

当社グループの上半期実績は、売上高61億1400万円、経常損失2億400万円と期初計画を下回る厳しい結果となりました。これは、世界的な金融危機を背景とした公共事業の縮小や個人の住宅購入意欲の低下、民間の設備投資の低迷などにより、第1四半期までの損失が想定以上に大きかったことが要因です。夏場以降、一部で持ち直しの兆しも見えてきましたが、これを吸収するまでには至りませんでした。

売上構成の内訳を見ると、新設からリニューアルへの需要の大きな変化が読み取れます。具体的には、新築マンションなどに使われるアンカーは低調気味ですが、耐震補強工事に使われる接着系アンカーは予想を大きく超える需要があったほか、耐震補強工事に特化した引張荷重確認試験の引合いも多くありました。結果として、リニューアル事業の業績は前期比プラスになるなど、成長を続けています。

通期見込みにつきましては、11月11日に見通しを修正しております。下期も公共事業の見直しが進められるなど、厳しい外部

環境は続くものと考えております。しかしながら、全社一丸となって経費節減に努める一方、好調であるリニューアル事業の工事受注確保を中心に意欲的に営業活動を行ない、通期での黒字確保を達成したいと考えています。

Q2 今期からスタートした事業部制ですが、業務執行は順調に進んでおられますか。

事業部制への移行は来期に実施する計画でしたが、厳しい経済環境の今こそ改革を断行する機会と捉え、1年前倒しで踏み切りました。導入直後は戸惑いもあったようですが、ようやく足並みがそろってきました。

事業部ごと、また社員一人ひとりが、「いつまでに、どこまでやるのか」という目的意識や経営意識を今まで以上に持つことで、本来の目的である「成長性・収益性の追求」が達成できるものと考えています。

事業部ごとの連携は毎週末に各事業部長と関係部署がミーティングを行ない、情報の共有化を進めるとともに、マーケティング部により収集・分析されたデータを営業や開発にどう活かす

経営理念

奉仕は、真価の追求なり
啓発は、未来の追求なり
協調は、繁栄の追求なり

社 是

創り、活かし、満たす
— 人のお役に立つために、
創造提案型企業をめざす —

社 訓

感性と実践力を磨き、
健康で豊かな環境づくりに貢献します

心の経営とは

私たちの会社が、いま最も大切にしているもの。

それは「心の経営」です。

心の経営とは、

「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を
基本姿勢とし、その実践を

「挨拶と清掃」に求めています。

こうした日々の実践を通して

活気あふれる職場づくりを目指しております。



「社団法人倫理研究所」の
ライセンス認定企業プログラム
『倫理17000』の第1号に認定

かといった討議を密にしています。これにより、事業部ごとの方向性が明確になっただけでなく、会社としての迅速な決断も可能となりました。1年前倒して踏み切った事業部制ですが、今は、思いきって断行して良かったと思っています。

Q3 モノづくりから「システムづくり」への移行が必要と以前語っておられましたが、具体的な動きはありますか。

「システムづくり」という考え方の根本は、ユーザーに焦点をあて、ユーザーのメリットを前提にモノづくりをやっていく、ということです。例えば当社のコア製品である、あと施工アンカーも単にアンカーを製造・販売するだけではモノづくりの企業で終わってしまいます。しかし、実際にユーザーの視点に立ってみると、「穿孔」「取付け」「強度確認試験」という流れ(システム)が発生します。当社ではこれら一貫したシステムに対応した製品を提供することの重要性を認識し、新製品の開発を推し進めているわけです。

今期から販売を開始した「アンカー打込機」、「テクノテスターAT-200」、「サイズミックコアドリル」などの新製品は、こうした「システムづくり」を意識して開発したものです。お蔭様で出足は好調です。さらにマーケティング部の市場調査により、お客様から製品に対して様々なご要望もいただいております。これらのご要望から、新たな改良テーマを発見、再確認できており新製品開発へつながる流れができてつつあります。このようにユーザーニーズからマーケットを創出できることは大変ありがたいことです。

今後もユーザーが使いやすい製品やシステムをつくり、さらには業界のレベルアップを図っていくことが当社グループの一番重要な使命だと感じています。

Q4 長期的ビジョンにたって、今後飛躍を図っていく事業分野があればお聞かせください。

政府が2020年の温室効果ガス排出量を25%削減(1990年対比)する政策を打ち出しており、国民の間でも環境に対す

る意識が高まっています。当社としましては、私たちが持つ技術をこうした分野に活用できないかと考えています。例えば、いま大きな注目を集めている太陽光発電。現在、国内にある太陽光発電の多くは住宅用ですが、今後は産業用太陽光発電の導入が拡大するものと考えられます。産業用太陽光発電の設置は、大半がコンクリート構造の陸屋根(平らな屋根)で、コンクリート^{ファスニング}との締結はもちろん、防水の観点から非常に困難を伴います。そこで、当社の締結技術の出番となるわけです。我々は、あと施工アンカー業界のリーディングカンパニーとして、こうした新市場を開拓すべく研究開発を進めています。

いずれにしても、事業環境はこれから大きく変化していきます。従来の事業に加え、成長のキーワードといわれる「環境」「健康」「省エネ」の3分野に対しても積極的に経営の舵をとっていく考えです。

Q5 最後に、株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

当社は、以前も述べさせていただいたように不況に強い体質をもっていると自負しております。今回のリーマンショックを契機とする経済危機は100年に一度といわれるほど厳しいものでした。そうした厳しい環境下でも大幅な赤字になることはありませんでした。悪戦苦闘はしておりますが、こうした時期だからこそ企業体質を見直し、ムダを徹底的に排除するなど不況を克服することについても自信を深めつつあります。この点は、ご安心いただけると存じます。また、今期も新製品を開発・販売するなど技術開発の手を緩めてはおりません。上述の通り、新分野に対しても投資は怠っておりませんので、将来必ず芽が出てくると確信しております。

まずは通期での赤字を脱し、ご期待に沿った業績を挙げるべく、全社一丸となって邁進する所存ですので、ご理解をいただきますとともに、引き続きのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

当社コーポレートマークの意味

当社コーポレートマークには青・黒・赤の3色が使われています。それぞれの色をもつ一般的なイメージと当社理念を連動させ、「**個人の成長は個性となり**」「**それが重なり合って支え合い**」「**社会にアウトプット(貢献)していく**」創造提案型企業であることを示しています。

「青」は「誠実・知性」をイメージさせ、「**個人の成長**」つまり「**啓発**」を表します。



「赤」は「創造・エネルギー」をイメージさせ、「**アウトプット(社会への貢献)**」つまり「**奉仕**」を表します。

「黒」は「全てを包み込む力強さ」をイメージさせ、「**個性を支え合う**」つまり「**協調**」を表します。

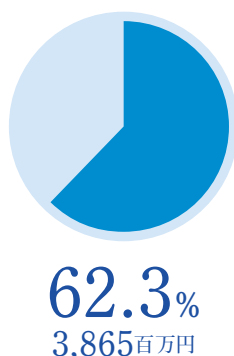
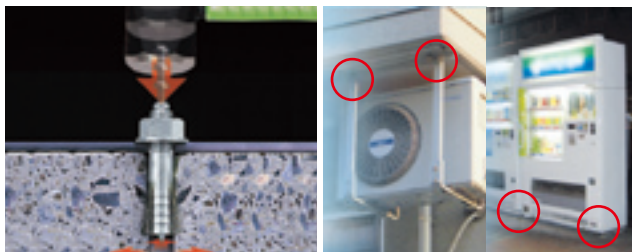
セグメント別事業概況

第46期第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

ファスニング事業

● 事業内容

あと施工アンカー、建設資材の留め具であるファスナーなど締結関連の建設資材を製造・販売しています。



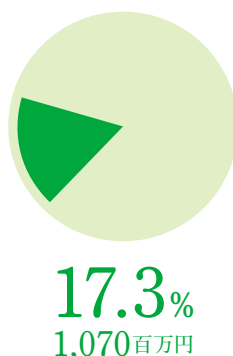
事業概況

売上高は3,865百万円（前年同期比17.1%減）、売上総利益は1,145百万円（同16.9%減）となりました。西日本地区の業績は好調でしたが、関東以北の市況が回復せず需要が低迷し、減収減益となりました。

D & D 事業

● 事業内容

アンカーの用途に応じたコンクリート用各種ドリルを製造・販売しています。また(株)IKK製の電動工具も取扱っています。



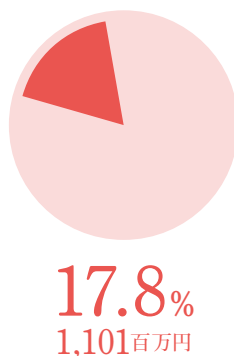
事業概況

売上高は1,070百万円（前年同期比30.0%減）、売上総利益は270百万円（同40.1%減）となりました。新製品3機種の販売は好調でしたが、ドリルビットの販売が落ち込んだほか、(株)IKKの電動工具製品の国内・海外の販売不振が大きく響き、減収減益となりました。

リニューアル事業

● 事業内容

あと施工アンカーをはじめとする締結技術を応用し、各種構造物を守る工法を開発、耐震補強に活用しています。



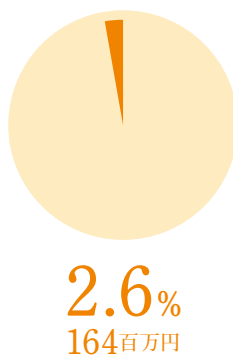
事業概況

売上高は1,101百万円（前年同期比8.7%増）、売上総利益は254百万円（同2.7%増）となりました。4～6月期の工事物件の受注に加え、上半期を通じて屋上外断熱防水のテクノパネル工法をはじめとするFRP関連商材の販売が好調だったことから、増収増益となりました。

新事業

● 事業内容

車両の表示板用や工事・事故の表示板用、測定器や観測機向けなどの電子プリント基板の一貫生産・販売を行っています。



事業概況

売上高は164百万円（前年同期比29.6%減）、売上総利益は20百万円（同59.8%減）となりました。新規顧客への売上は順調に推移しましたが、電機・設備業界向けの受注減が大きく響き、減収減益となりました。

連結財務諸表

※百万円未満を切り捨てています。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半 期末	前 期 末
科 目	平成21年9月30日	平成21年3月31日
資産の部		
流動資産	7,159	7,141
固定資産	6,209	6,372
有形固定資産	5,230	5,338
無形固定資産	54	64
投資その他の資産	925	969
資産合計	13,369	13,513
負債の部		
流動負債	5,467	5,241
固定負債	1,544	1,771
負債合計	7,011	7,013
純資産の部		
株主資本	6,167	6,389
資本金	768	768
資本剰余金	581	581
利益剰余金	5,061	5,283
自己株式	△243	△243
評価・換算差額等	△37	△107
その他有価証券評価差額金	△10	△20
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△27	△86
少数株主持分	228	218
純資産合計	6,357	6,499
負債純資産合計	13,369	13,513
1株当たり純資産(円)	3,011.98	3,086.96

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間	前 期
科 目	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	6,114	7,371	14,872
売上原価	4,432	5,243	10,601
売上総利益	1,681	2,128	4,271
販売費及び一般管理費	1,868	2,118	4,006
営業利益又は営業損失(△)	△186	10	264
営業外収益	62	107	235
営業外費用	80	93	183
経常利益又は経常損失(△)	△204	24	315
特別利益	0	0	1
特別損失	15	165	203
税金等調整前四半期(当期) 純利益又は純損失(△)	△219	△141	113
法人税、住民税及び事業税	△84	△18	119
法人税等調整額	6	△1	6
少数株主利益	1	10	19
四半期(当期)純損失(△)	△143	△131	△31
1株当たり四半期(当期)純損失(△)	△70.48	△64.77	△15.55

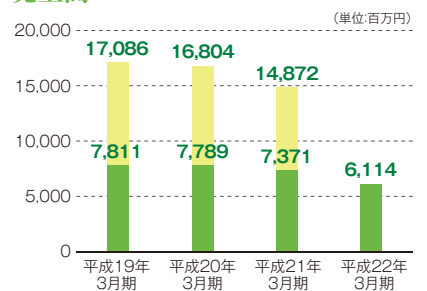
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

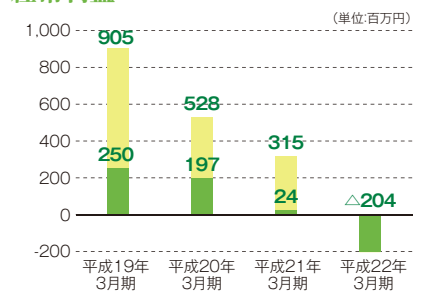
	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間	前 期
科 目	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	475	377	533
投資活動によるキャッシュ・フロー	8	△81	△455
財務活動によるキャッシュ・フロー	△204	△340	△317
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△45	△63
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	290	△90	△304
現金及び現金同等物の期首残高	729	1,033	1,033
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△3	—	—
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	1,015	943	729

財務ハイライト

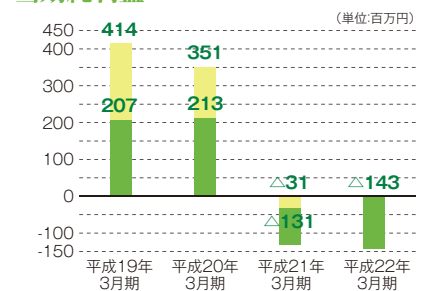
売上高



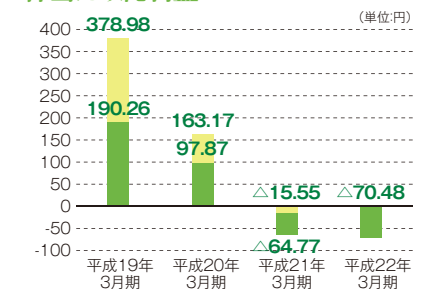
経常利益



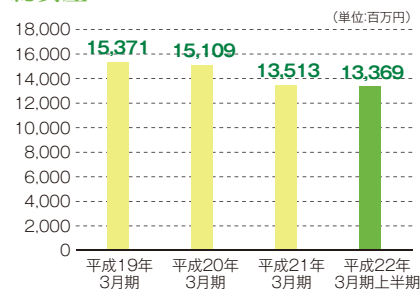
当期純利益



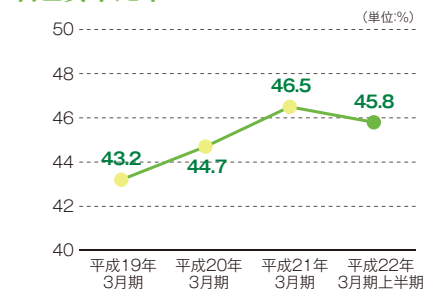
1株当たり純利益



総資産



自己資本比率



※平成19年4月1日付けで1株につき2株の株式分割を行っております。

1 大阪支店移転しました

2009年7月21日、当社大阪支店が大阪市城東区から東大阪市横枕西へ移転しました。

近畿地方の販売網の拡大と共に、さらなる売上増を目指して邁進していく次第です。



2 ホームページリニューアル1周年

〈製品情報ページ 会員登録者数が3,000名を突破〉

昨年10月よりリニューアルした当社ホームページ。会員登録した方にのみ閲覧可能である「あと施工アンカー設計ガイド」を本年5月に公開したところ、会員登録者数が予想を上回るペースで推移。11月末現在で、3,000名以上の方々にご登録いただきました。さらに、11月4日には当社メイン製品の様々なデータが記載されている「製品仕様書」を公開。今後も、あと施工アンカー業界のトップメーカーとして、お客様にとって有益なホームページへ発展させてまいります。



技術資料・設計ガイド

会員登録が必要です。当社製品の技術資料やCADデータなどをご覧いただけます。

1分でわかるあと施工アンカー動画

会員登録不要です。一般の株主様にも当社主力製品である「あと施工アンカー」の施工シーンをわかりやすくご覧いただけます。



3 IR サイト紹介

〈7月にリニューアルしました〉

コーポレートサイトに続き7月にはIRサイトもリニューアルしました。生まれ変わったIRサイトをぜひご活用ください。



財務情報

様々な指標をグラフでわかりやすく表示しています。



IRライブラリ

新たに決算説明会資料やIRニュースもご覧いただけるようになりました。

決算短信・有価証券報告書

トップページから1クリックで最新の決算短信・有価証券報告書をご覧いただけます。



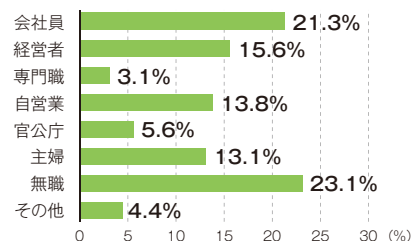
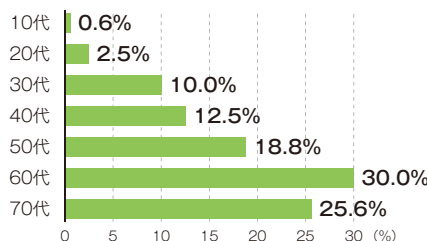
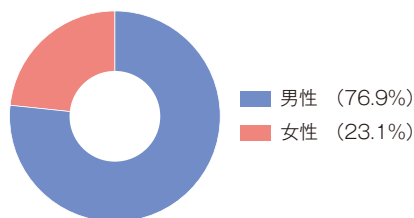
株主広場

株主様アンケートのご報告

本誌「IR News」第45期事業のご報告において実施させていただきました。「株主様アンケート」では、皆様からのご回答ならびに貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。皆様からいた

だきました貴重なご意見、ご要望は、今後の経営方針やIR活動の参考とさせていただきます。以下にアンケート結果の一部をご報告いたします。

●ご回答者様の属性等



アンケート回答結果

Q1. 当社に何を期待しますか？（複数回答）

安定的な収益	58.8%
積極的な事業拡大	21.9%
株主への利益還元	45.0%
株主優待の実施	30.6%
工場見学会(説明会)の実施	5.6%
その他	4.4%

Q2. 当社に対する不満はありますか？（複数回答）

業績	15.0%
株価	43.1%
配当	6.9%
自己資本比率	1.3%
出来高	9.4%
商品のアピール	12.5%
特にない	28.8%

IR担当より

安定的な収益・利益還元を期待される一方、業績・株価に不満を持たれる株主様が多いことがわかりました。引き続き厳しい情勢ではありますが、さらなる企業努力により収益を確保し、市場で評価をいただき株主様に還元できるよう努力してまいります。また、株主優待を希望される株主様も多くいらっしゃいますが、当社では、まず株主様に均等に利益還元することを最優先に考え、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。その上で、必要に応じて検討してまいります。

Q3. 当社を知ったきっかけは何ですか？

ブリッジサロン、ブリッジレポート	1.9%
その他会社説明会	5.0%
新聞などの媒体広告	9.4%
四季報、日経会社情報などの株式媒体	50.3%
その他	33.4%

Q4. 購入の理由は何ですか？（複数回答）

将来性・成長性	41.9%
安定性・業界トップシェア	26.9%
経営トップの考え	11.3%
商品開発力・技術力の高さ	15.6%
財務内容	6.9%
配当性向・配当利回り	15.0%
その他	10.6%

IR担当より

将来性・成長性とお答えになる株主様が多い結果となりました。あと施工アンカー業界ではトップシェアをいただいておりますが、これに甘んじることなく、新製品開発にむけ研究開発を進めるとともに、積極的なM&Aを展開し、さらなる飛躍を目指してまいります。

Q5. 当社商品を知っていますか？

使っている	11.3%
知っている	31.4%
名前は知っているが見たことは無い	38.4%
見たことも聞いたことも無い	18.9%

Q6. 当社HPを見たことはありますか？

よく見る	5.9%
たまに見る	31.4%
見ない	47.0%
ホームページを開設していたの知らない	15.7%

Q6-1. IRサイトは見ますか？

はい	25.5%
いいえ	15.7%

Q6-2. 当社IRサイトで気になる点、改善して欲しい点は？

最新の業況を早めに掲載希望

IR担当より

何らかの形で当社製品をご存知の株主様が80%を超えました。そして実際にお使いのユーザー様も11%いらっしゃいました。IR担当として大変嬉しい結果です。一方で、製品をご存知でない株主様が2割、さらにはホームページをご覧でない株主様が6割を超えることがわかりました。前ページでも紹介の通り、当社はホームページ上での情報開示(製品紹介・IR情報など)を積極的に行っています。当社をより知っていただくためにも、まだホームページをご覧でない株主様は、これを機に是非ご覧下さい。

会社概要

(平成21年9月30日現在)

商 号 サンコーテクノ株式会社
 設 立 1964年5月15日
 資 本 金 768百万円
 社 員 数 335名
 所 在 地 千葉県流山市東初石六丁目183番1
 TEL 04-7178-5535
 FAX 04-7178-5557
 取 引 銀 行 みずほ銀行
 りそな銀行
 商工組合中央金庫
 千葉銀行
 事 業 内 容 建設資材(あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等)、複合材、防水材の企画開発・製造・販売・施工及び輸出入

役員

代表取締役社長	洞 下 実
専務取締役	佐 藤 静 男
取締役	洞 下 正 人
取締役	洞 下 英 人
取締役	上 石 茂 行
取締役	八 谷 剛
取締役	増 田 誠 次
取締役	佐 藤 靖
監査役	甲 斐 常 敏
監査役	鈴 木 英 雄
監査役	塙 善 光

関連会社

連結子会社 SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.
 三幸商事顧問股份有限公司
 株式会社IKK
 アイエスエム・インタナショナル株式会社
 株式会社スィコー
 持分法適用関連会社 株式会社サンオー
 持分法非適用関連会社 株式会社イーオプティマイズ

株式の状況

(平成21年9月30日現在)

発行可能株式総数…………… 3,500,000株
 発行済株式の総数…………… 2,186,352株
 株主数…………… 647名

大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
洞下 実	246	11.27
東京中小企業投資育成株式会社	180	8.23
有限会社サンワールド	168	7.68
サンコーテクノ社員持株会	164	7.54
武藤 昭二	93	4.27
濱中ナット販売株式会社	80	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	70	3.20
新井 栄	68	3.13
洞下 照夫	53	2.45
株式会社みずほ銀行	44	2.03

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 2. 当社は自己株式(151千株)を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

サンコーテクノ株式会社

〒270-0114 千葉県流山市東初石六丁目183番1

株主メモ

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 事業年度末日の翌日から3か月以内
 基 準 日 3月31日
 配 当 基 準 日 3月31日、9月30日(中間配当を行う場合)
 1単元の株式数 100株
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 公 告 の 方 法 電子公告により当社ホームページ(<http://www.sanko-techno.co.jp/>)に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

お問い合わせ先

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスター証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

Web Information

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示をしております。当社をより理解していただくためにも、ぜひアクセスをお願いいたします。

<http://www.sanko-techno.co.jp/>



TOP画面

IR情報画面



この冊子は環境保全のため、大豆インキとFSC認証紙を使用しています。